

you
me

毎日の暮らしをサステナブルな未来へ。
イズミグループが、あなたと一緒にできること。



会 社 概 要

会 社 名	株式会社イズミ
本 社 所 在 地	広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
資 本 金	196億1,385万円
設 立	1961年10月27日
従 業 員 数 (連 結)	正社員 5,025名 パートタイマー 13,560名(1日8時間換算) ※2026年2月28日現在
店 舗 数	263店舗(エクセル単独店舗5店舗、ア・フルール プティ単独店舗1店舗含む) ※2026年8月1日現在
店 舗 地 域	広島県、岡山県、山口県、島根県、福岡県、佐賀県、 大分県、長崎県、熊本県、兵庫県、香川県、徳島県 他
事 業 内 容	ショッピングセンター、ゼネラル・マーチャンダイジング・ストア(GMS)、 スーパーマーケット等の業態による衣料品、住居関連品、 食料品等の販売およびインポート事業
グループ会社	(株)ゆめカード(クレジット・金融事業) (株)イズミテクノ(店舗施設管理) イズミ・フード・サービス(株)(外食) 他

you
me

作成部署およびお問い合わせ先

株式会社イズミ 経営企画部サステナビリティ推進課
〒732-8555 広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
TEL 082-264-3211(代) URL <https://www.izumi.co.jp/>

イズミグループ 社会・環境報告書 2026

ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY REPORT

イズミグループの目指す姿 | 2035年長期ビジョン

経営理念

社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける

目指す姿

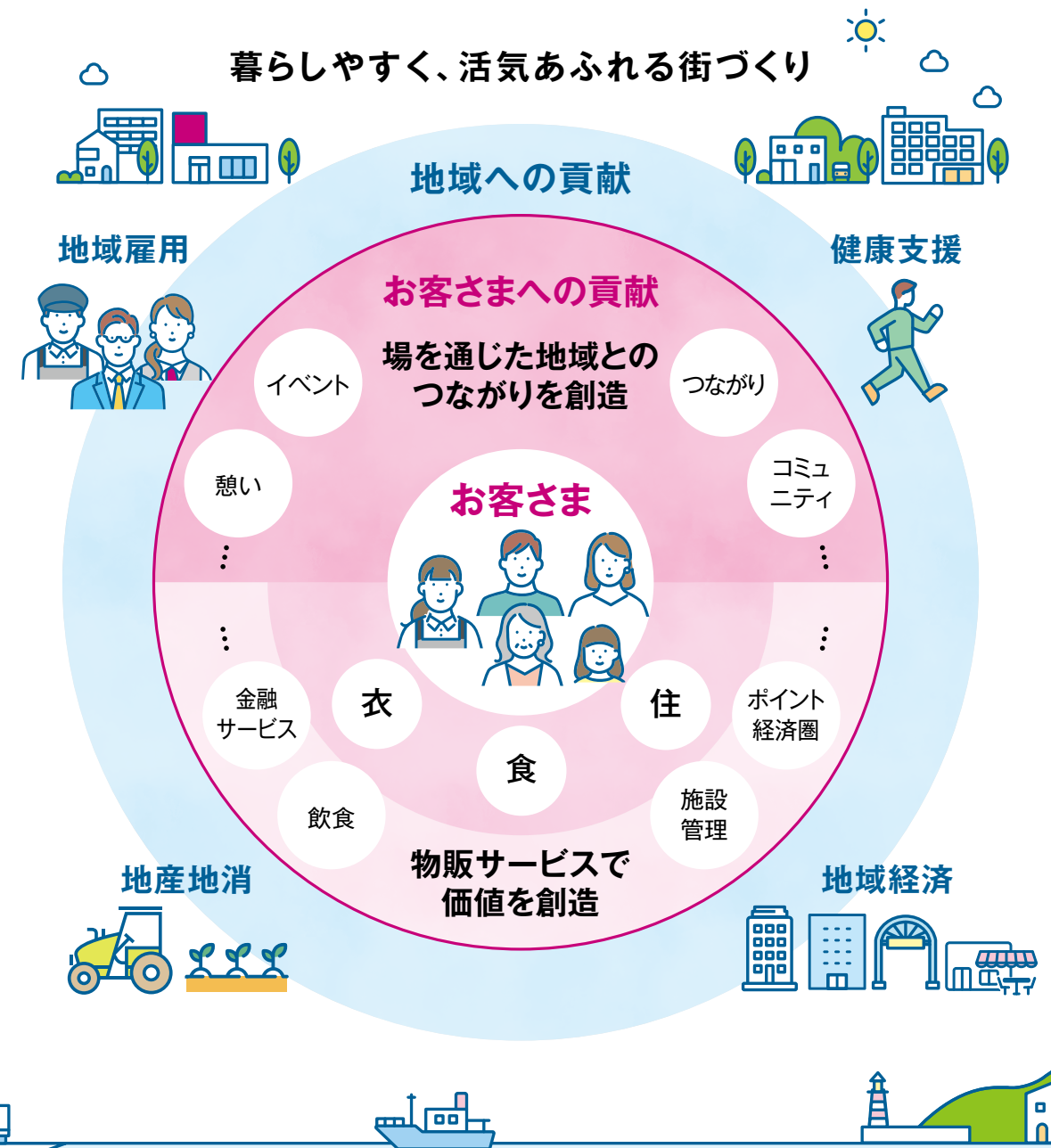
私たちイズミグループは西日本エリアにおいて、最も地域に寄り添い、地域のお客さまに頼りにされる「地域の総合生活産業」を目指します

基本方針

地域のお客さまに誰よりも寄り添う
地域と共に成長する仕組みを構築する
地域の人々の暮らしの拠り所となる

目指す方向性

営業収益 **1兆円以上** (新収益認識基準)
顧客エンゲージメントスコア 毎期の **持続的向上**
従業員エンゲージメントスコア **70pt以上**



社会・環境報告書の作成にあたって

●編集方針

イズミでは、CSR(企業の社会的責任)に関わる取り組みを多くの方々にご理解いただくために、社会・環境報告書を作成しています。
報告項目の選定に当たっては、ステークホルダーの皆さまの関心事と、イズミが事業活動として重視している事項を考慮して取捨選択し、本書にまとめています。内容としては、CSR活動の中心である店舗・従業員の活動をメインに取り上げています。
記事の作成に当たっては、読みやすさ、理解しやすさに配慮し、写真やグラフ、図などを積極的に取り入れています。

【最新情報について】

イズミホームページにて、最新の取り組みや詳細な情報を紹介しています。併せてご覧ください。 URL <https://www.izumi.co.jp/sustainability/>

●報告書の発行

今回の発行

2026年8月(2025年3月1日~2026年2月28日の取り組み内容)

※一部、2025年3月以前、2026年3月以降の取り組みについても報告を行っています。

次回の発行予定

2027年8月(2026年3月1日~2027年2月28日の取り組み内容)

●報告書の対象

株式会社イズミの取り組みを基本として、グループ会社も一部含まれています。

●対象読者

お客さま、店舗の近隣住民の皆さま、行政、お取引先さま、株主の皆さま、学生、NPO、NGO、投資家の皆さま、従業員など

contents

イズミグループのサステナビリティ	イズミグループの目指す姿	1
	ESGマネジメント	3
	youme MIRAI Action	5
トップメッセージ	株式会社イズミ 代表取締役社長 町田 繁樹	7
新店オープン情報	ゆめモール那珂川／ゆめマート曾根	9
地域・お客さま		11
安全・安心		21
ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン		25
環境		29
グループ会社サステナビリティレポート2026		33

ESGマネジメント

持続可能な未来へ 一步一步、誠実に

社会環境の変化や地域のニーズに対応するため、2021年にマテリアリティ(重点課題)を策定し、2025年には社会・事業環境の変化を踏まえて見直しを実施しました。今後もマテリアリティを継続的に見直し、事業を通じた社会課題の解決と持続的な地域社会の実現を目指していきます。

サステナビリティ基本方針

- 1 未来を見据えた長期ビジョンを策定し、事業を通じて社会課題の解決に取り組みます。
- 2 すべてのステークホルダーと良好な信頼関係を築き、対話を通じて、共に社会に対して責任を果たします。
- 3 地域とともに発展するため、地域に根ざした活動に取り組み、よりよい生活環境を維持・向上させる活動を通して、長期的な価値を提供します。

国際的なサステナビリティ関連フレームワーク・イニシアチブへの取り組み

TCFD提言への賛同

2022年、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)に賛同し、提言に基づいて情報開示を行っています。



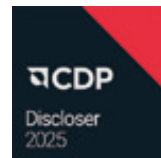
TNFDフォーラムへの参画

TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)フォーラムに参画し、自然関連情報の開示に取り組んでいます。



CDPで「B」認定

国際NGOであるCDPの「気候変動」「水セキュリティ」の両分野で「B」評価を獲得。



サステナビリティの取り組みについてはこちらから



コーポレートガバナンス推進体制

基本的な考え方

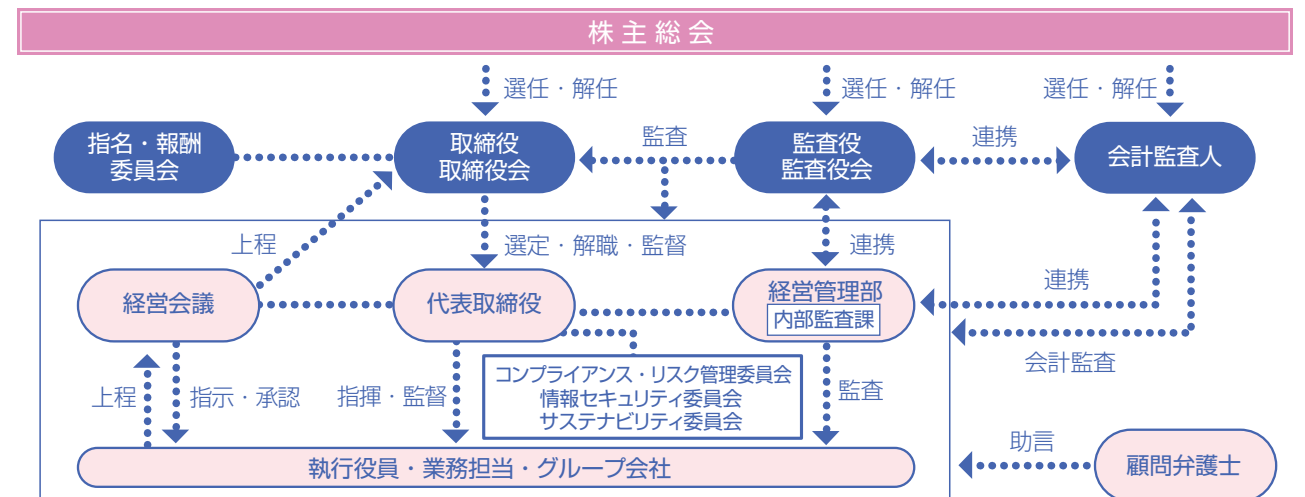
お客さま満足の実現を通じて企業価値の最大化を図り、同時に高い倫理観をもって社会的責任を果たすことにより、お客さま・従業員・取引先・地域社会等のステークホルダーの期待に応えてまいります。

また、中長期的な企業価値向上のため、企業活動の透明性・公正性・生産性を高めることを重要課題として、経営組織の改革や諸制度の整備および内部統制システムの充実等を図るコンプライアンス経営を継続的に推進しており、ステークホルダーに信頼されるコーポレート・ガバナンスの充実にに向けて取り組んでいます。

コーポレートガバナンスの詳細についてはこちらから



業務の執行・監査および内部統制の仕組み



マテリアリティ(重点課題)

マテリアリティ	対応するSDGs	社会課題	2030年度目標	主な取り組み	詳細
地域・お客さま 地域、お客さまとともに豊かな暮らしをつくる	 	少子高齢化 人口減少 自然災害の多発	300店舗以上体制の実現 広島・福岡・熊本で食品シェアNo.1	さまざまなお客さまに配慮した商品・サービスの提供や、便利なお買い物方法の整備 地域のお客さまが集う場所・機会の提供 自治体との包括協定等の締結・連携による地域の活性化、災害時対応	 p11 ~ p20
環境 脱炭素社会の実現と資源の有効活用をする	 	気候変動 資源の枯渇 食品ロスの深刻化	店舗運営に伴うCO ₂ 排出量50%削減(2013年度比) 食品ロス発生量を50%削減(2018年度比)	CO ₂ 排出量削減、エネルギー対策 店舗から排出される廃棄物の削減 プラスチック製容器包装の削減 資源の有効活用	 p29 ~ p32
安全・安心 安全・安心の提供と商品・サービスを通じた価値をつくる	 	食品衛生管理体制の不備 サプライチェーンの不透明性 コンプライアンスの不徹底	サステナブルな商品の調達割合 ・食品本部5.6% ・ライフスタイル本部7.1% 食品安全ライセンス認定試験合格者2,700名	衛生管理の徹底 健康やアレルギーに配慮した商品の取り扱いと適正な表示 水産物、農産物の持続可能な調達、環境配慮型商品の提供	 p21 ~ p24
ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン 多様な人財が活躍できる環境を整備する	 	労働人口の減少 多様性・包摂の不足 労働安全衛生体制の不備	女性管理職比率18.1% 障がい者雇用率2.7%	女性活躍推進、女性管理職比率のアップ 若年層、高齢者、外国人、障がい者の活躍支援 ライフステージにあった労働環境の整備	 p25 ~ p28

youme MIRAI Action

2050年までの目指す姿を「youme MIRAI Action」として目標を定め、達成に向けた活動に取り組んでいます。

脱炭素社会の実現に向けて



店舗運営に伴うCO₂排出量 ※目標・実績は2013年度比



創エネと省エネで脱炭素化を加速

太陽光発電設備やPPAモデルを導入し、2022年以降の新規店舗は再生可能エネルギー100%で運営しています。2024年以降はオフサイトPPAや再生エネ電力メニュー契約も拡充し、既存店舗の一部でも再生可能エネルギー100%運営を開始しました。今後も再生エネ電力の調達と省エネルギー対策を推進し、CO₂排出量の削減を通じて、脱炭素社会の実現を目指します。

再生可能エネルギー100%店舗数 **21**店舗 (2026年3月現在)



「ゆめマート山陽」の太陽光発電パネル

その他の取り組みはP29-30で紹介

資源循環社会の実現のために

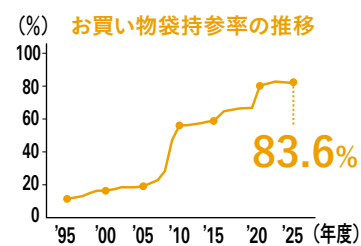


プラスチック製レジ袋使用量 ※目標・実績は2018年度比



プラスチック製レジ袋削減への取り組み

約30年にわたりお客さまとともに取り組んできたお買い物袋持参運動により、現在では8割以上のお客さまがマイバッグを持参されています。また、2024年10月からは非食品売場で紙製のレジ袋を使用するなど、プラスチック製レジ袋の削減を着実に進めています。



ペットボトル自動回収機を設置

2022年より店頭へのペットボトル自動回収機設置を進め、回収したペットボトルを新たなペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」の水平リサイクルを実施しています。2026年7月には57店舗に導入され、お客さまのご協力のもと、店頭回収から再資源化までの資源循環の仕組みを構築しています。

自動回収機で回収されたペットボトルの本数
約2,750万本
(2025年度)

店頭のペットボトル・アルミ缶回収機



その他の取り組みはP31-32で紹介

食品ロス・食品廃棄物削減のために



食品ロス発生量 ※目標・実績は2018年度比



発注精度の向上で食品ロス発生抑制

需要予測型発注機を導入し、発注精度の向上による食品ロス発生抑制を積極的に推進。また食品廃棄量の「見える化」を行い、従業員に意識づけを行うことで、廃棄量の削減を図っています。



需要予測型発注により在庫を適正化

食品リサイクル率 ※食品リサイクル法の算出方法に基づく



「もぐもぐチャレンジ」でてまどり推進と社会貢献

賞味・消費期限間近の商品に貼られたシールを集める「もぐもぐチャレンジ」。楽しみながら食品ロスを減らすと同時に、寄付を通じて社会貢献ができる仕組みです。

もぐにいシール回収枚数 **約67万枚** (2025年度)



お菓子などを贈呈

フードドライブで食料支援

お客さまにご家庭の未利用食品を寄付していただき、フードバンク団体などを通じて食品を必要とする人へ届けるフードドライブを2025年度から全店で実施しています。

2025年度実績

寄付点数 **約6万4千点**
寄付重量 **約22t**
寄付団体数 **35団体**



寄付されたお菓子や調味料

野菜くずなどの食品廃棄物を再資源化

魚のあらや野菜くず、廃油などの食品廃棄物は、資源として有効活用するため、徹底した分別管理を実施しています。廃油は主に飼料へ、それ以外は専門業者で肥料に再生。2025年度から始まった取り組みとして、熊本エリアでは一部店舗から回収した食品廃棄物をもとにメタン発酵バイオガスを生成し、エネルギーとして再利用しています。



分別を促す分類表示

その他の取り組みはP31-32で紹介

「地域の総合生活産業」として 地域とともに歩み、暮らしに寄り添いながら、 新たな価値を創り続けてまいります。



代表取締役社長

町田 繁樹

2026年、イズミグループはおかげさまで創業65周年を迎えることができました。私たちの源流は、創業者・山西義政が終戦直後に広島駅前の闇市で始めた、戸板一枚の小さな露店にあります。「お客さまを喜ばせたい」という思いを原点に、干し柿を売る商いから衣類卸へ、そして1961年には中四国初のスーパーマーケットを開業するなど、時代の変化に応じて事業を進化させてまいりました。

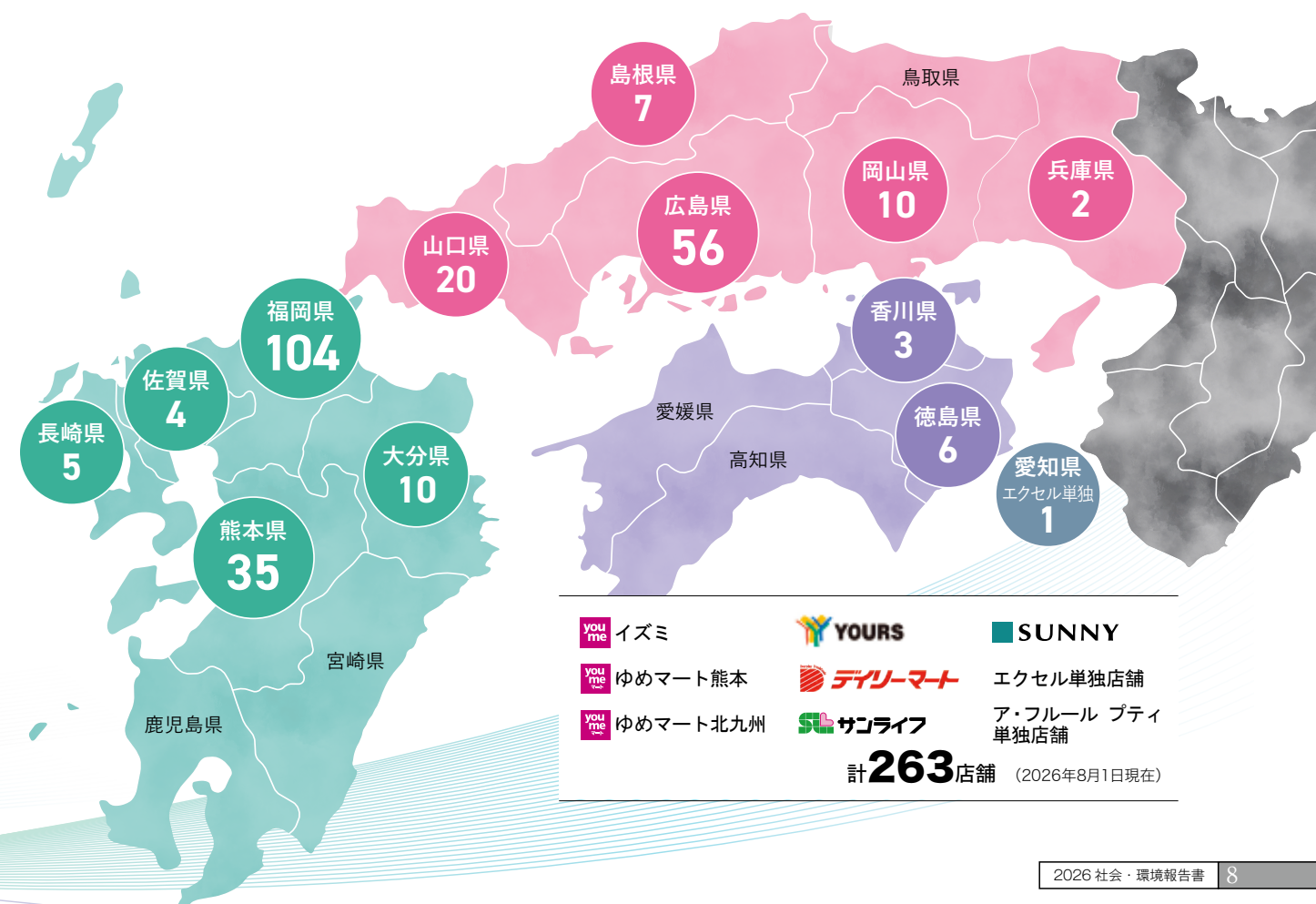
現在、社会は大きな転換期にあります。人口減少や地域コミュニティの変化、気候変動への対応、価値観の多様化など、企業に求められる役割はより広く、そして深いものとなっています。こうした中、私たちは創業の精神に立ち返るとともに、その根底にあるイズミグループDNAである「革新・挑戦・スピード」を指針に、2035年長期ビジョンとして、西日本エリアにおいて最も地域に寄り添い、地域のお客さまに頼りにされる「地域の総合生活産業」の実現を目指してまいります。

その実現に向けて私たちが重視しているのは、事業を通じて地域社会にどのような価値を届け続けることができるか、という視点です。大型ショッピングセンター「ゆめタウン」は、単なる商業施設にとどまらず、人々が集い、つながり、暮らしを支える“地域の拠点”として進化してまいりました。公共施設やコミュニティ機能の導入を通じて、地域のにぎわい創出や生活支援に取り組んでいます。また、食品スーパー「ゆめ마트」などにおいても、「食」を通じて日々の暮らしを支える基盤としての役割を一層強化すべく、品ぞろえや売場づくりの改革に取り組み、より便利で快適なお買い物体験の実現を進めています。

さらに、持続可能な社会の実現に向け、「地域・お客さま」「環境」「安全・安心」「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン」という4つのマテリアリティ(重点課題)を軸に、環境負荷低

減や資源循環への対応、安全・安心な商品とサービスの提供、公正な取引の推進に努めるとともに、多様な人財が活躍できる職場環境の整備にも力を入れています。こうした取り組みはすべて、事業活動そのものを通じて社会課題の解決に貢献していくという、私たちの基本姿勢に基づくものです。

イズミグループにとって、“事業の成長”と“社会への貢献”は切り離せるものではありません。すべてのステークホルダーの皆さまと対話を重ねながら、地域とともに歩み、その期待に応え続ける存在でありたいと考えています。これからも小売業の枠を超えた新たな価値創造に挑戦し、「地域の総合生活産業」として持続的な成長に取り組んでまいります。



ゆめモール那珂川

2026年3月7日オープン

福岡県那珂川市の皆さまの生活拠点にふさわしい地域密着型モールを目指して、「ゆめモール那珂川」を開業しました。食品スーパー「ゆめ마트那珂川」を核店舗として、銀行や歯科、ドラッグストアなどを集約し“毎日通う楽しみ”を提供しています。路線バスのロータリーが隣接するメリットを生かし、来店しやすい環境づくりにも注力。那珂川市との包括連携協定に基づき、地域活性化や市民サービスの向上へ真摯に取り組んでいます。

ゆめ마트那珂川
古賀店長

地域の皆さまにとって「那珂川のよりどころ」となれるようなお店づくりに取り組みます。



那珂川市の武末市長や地域の皆さまとテープカット

\\ 地域とつながる取り組み \\

◆ 包括連携協定締結

2026年2月17日に那珂川市と包括連携協定を締結しました。地産地消や地域の明るい未来に向け、連携して取り組みます。



◆ 図書館の返却BOX

那珂川市図書館の本が返却できるBOXを店頭で設置しています。「お買い物のついでに本の返却ができて便利」と好評です。



◆ 地産地消の推進

栽培や収穫の様子を見学するなど、地元生産者との交流を大切にしています。4月には店頭でタケノコをゆでて販売し、大盛況でした。



◆ 「やまもも」を使用した商品開発

那珂川市の市木の「やまもも」を使用した商品を、地元企業のご協力でご商品化。さわやかなサイダーに仕立てています。



◆ 地場の醤油を販売

那珂川市唯一の醤油メーカー「マルサン醤油」と協力を重ね、地元の皆さまに人気の全アイテムを導入し、コーナー化しています。



◆ 次世代育成に貢献

2026年2月9日、なかがわ保育園の年長さんが敷地内の花壇で卒園記念の植樹を行い、みんなで協力して苗木を植えました。



太陽光発電による再生可能エネルギーを使用



なかがわ保育園の園児による和太鼓演奏

\\ お客さまとともに環境保全 \\

◆ リサイクル素材を活用

イズミ初の取り組みとして、マイバスケット（販売用お買い物かご）やイトインコーナーのテーブルに、回収したペットボトルキャップを再生した素材を使用しています。



◆ 食品ロス削減の取り組み

食品ロス削減のため、てまえどり推進の「もぐもぐチャレンジ」や、家庭で未利用の食品を寄付する「フードドライブ」を実施しています。



◆ 店頭でリサイクル活動

店頭でペットボトルやアルミ缶を回収し、資源循環を推進。古紙回収の「エコステ」や食用油回収ボックスも設置しています。



ゆめ마트曾根

2025年9月2日オープン

2025年9月2日、「ゆめ마트曾根」が建て替えオープンしました。この店舗は1976年に開業した地域密着型の食品スーパーで、このたびの建て替えを機に24時間営業を開始し、利便性を向上。また産直の野菜・活魚の取り扱い強化がお客さまに好評です。北九州市内の商業施設で初めて、リサイクルアルミ100%の建材を使用した点も注目を集めています。



地域の皆さまと一緒にテープカット

\\ 環境に配慮した店舗づくり \\

「ゆめ마트曾根」ではリサイクルアルミ100%を使用した低炭素型アルミ型材「PremiAL R100」を北九州市で初めて採用しました。一般的なアルミ建材と比べて、製造時に発生するCO₂を約80%削減できます。

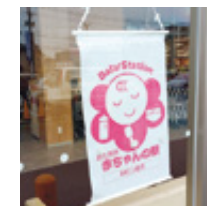
また、店舗の外壁材には、国産材木の端材を原材料として使用しています。木材の有効活用に加え、木が成長過程で吸収したCO₂を閉じ込めることで地球温暖化防止に貢献しています。



\\ 自治体との取り組み \\

北九州市と包括連携協定を締結し、「ゆめ마트曾根」は「赤ちゃんの駅」の取り組みに登録しています。「赤ちゃんの駅」は、乳幼児を抱える保護者が外出中にオムツ替えや授乳・搾乳などに立ち寄れる場所のことです。

また、北九州市と連携したリサイクル活動として、「使用済み食用油回収ボックス」の設置に協力し、回収された食用油はバイオマス燃料として再利用されています。





皆さまとともに 豊かな暮らしを

地域に密着した企業として、
多様なお客さまに配慮した
商品・サービスを提供するほか、
店舗を地域の総合生活拠点として
機能させ、コミュニティづくりや
防災などに貢献します。

本でつながる交流拠点 「まちライブラリー」開館

2026年5月1日、宇部市は市民の交流拠点として「まちライブラリー@ゆめタウン宇部」を開設しました。「まちライブラリー」とは、利用者から寄贈された本を通じて、幅広い世代がゆるやかにつながる、新しいタイプの図書館です。約330㎡のスペースに111の座席があり、読書や勉強はもちろん、飲食や会話も可能。家や学校、職場とは異なり、気軽に立ち寄ることができる“第三の居場所”として親しまれています。



幅広い世代が利用する憩いの場に



オープニングセレモニーで宇部市の篠崎市長が絵本を読み聞かせ

「ゆめタウン呉レクレ館」開業 市民の憩いの場も設置

呉駅前の商業施設「レクレ」を承継し、2025年10月23日に「ゆめタウン呉レクレ館」としてオープンしました。呉駅から「レクレ」、そして「ゆめタウン呉」を結ぶ自由通路にはコミュニティスペースを設け、憩いの場として活用されています。



地元の若手経営者グループと連携し、自由通路にカラフルな壁画を設置

行橋市との連携で誕生 室内型遊び場「あそぼっちゃ」

2026年3月20日、地域の課題であった子どもの遊び場不足を解消するため、行橋市が運営する市内最大級の室内型子どもの遊び場「あそぼっちゃ」が、「ゆめタウン南行橋」にオープンしました。天候に左右されず、年齢や障がいなどの違いに関係なく誰もが安全・安心に遊べるスポットとして、連日にぎわっています。イズミは施設内のトイレや授乳室の改装を行い、親子が快適に過ごせる空間づくりに取り組みました。



行橋市の工藤市長がテープカットに参列



乳児から児童まで楽しめる遊具を設置



ふわふわした雲のような複合遊具

次世代型遊具がずらり 「リトルプラネット」

2025年4月17日、デジタル技術を活用した次世代型テーマパーク「リトルプラネット」が「ゆめタウン久留米」にオープンしました。お子さまの創造力や探究心を育むアトラクション11種類が人気です。また、隣接するイズミ直営のキッズ売場もリニューアル。無料の遊び場も備え、遊び・学び・お買い物が一カ所で楽しめます。



元氣よく従業員がお出迎え



スクリーンに登場する恐竜のシッポで“大縄跳び”

生理用品を無料提供 「トレルナ」導入

トイレの個室で生理用ナプキン[※]を無料提供する「トレルナ」を2025年7月より3店舗で開始し、現在は14店舗で展開。女性のウェルビーイング向上の一環として、お客さまや従業員から好評を得ており、今後も拡大を予定しています。



女性トイレの個室内に設置された「トレルナ」

eスポーツ普及へ 真庭市と連携

2026年1月17日、「ゆめタウン久世」で「真庭eスポーツ交流広場」を開催。真庭市との包括連携協定により行ったもので、多くの方がゲームを楽しみました。



親子連れでにぎわう会場

看護の日イベント 「ゆめタウン丸亀」で実施

2025年5月10日、「ゆめタウン丸亀」で看護協会や労災病院などの主催で看護の日関連イベントを開催。骨密度・血圧測定や心の相談、看護師志望者向け説明会などでにぎわいました。



スタッフとして参加
看護師の方が



皆さまとともに豊かな暮らしを

祇園の夏の風物詩
「盆おどりフェスタ」開催

2025年8月1日・2日、「ゆめテラス祇園」で「盆おどりフェスタ」を実施しました。「いづみ祇園ショッピングセンター」(1973年開業)から続く恒例行事とあって、約7,000名が来場。例年よりキッチンカーを増やしたほか、外国人実習生による文化ステージなども好評で、会場は大いににぎわいました。



ベトナム・ミャンマーの実習生による文化ステージ



盆おどりを楽しむ地域の皆さまの大きな輪

飯塚山笠で
名誉の“台上がり”

2025年7月6日～20日に飯塚市で飯塚山笠が開催されました。「ゆめタウン飯塚」の松村店長(当時)は、地元チーム「菰田流」の名誉ある“台上がり”を拝任。責任ある山笠の指示役を任せられ、「菰田流」の史上初の3連覇に貢献しました。



勇壮な山笠に乗った松村店長(当時)

乳製品の消費拡大へ
ミルクイベント

2025年6月7日、「魅力ときめくミルクイベント」を広島県酪農業協同組合ミルクファームHARUとの連携により「LECT」で開催しました。広島県産の牛乳・乳製品をもっと飲んで食べてほしいという思いから、牛乳パックでお面づくり、搾乳の模擬体験などを実施。来場者と一緒に「牛乳そんぐ」を歌って踊るステージショーは、この日一番の盛り上がりとなりました。



牛のコスチュームで元気にダンス

厳選したグルメが集結
「おいしい出雲フェア」

2025年9月25日～10月5日、「ゆめタウン出雲」「ゆめタウン斐川」で、「おいしい出雲フェア」を開催しました。これは地元の特産品をPRする企画で、認定商品の「のどぐろ煮付」や、「あごだししょうゆ」などを販売。地産地消の推進に努めました。



出雲のグルメが勢ぞろい

「艦隊これくしょん」
コラボイベント大盛況

2025年8月8日～31日、人気ソーシャルゲーム「艦隊これくしょん」とのコラボにより、「ゆめタウン呉」でグッズ販売やお楽しみ抽選会などを実施。遠方からもファンが集まり、特に30日の「艦娘音頭大会」は大盛況でした。



屋上で「艦娘音頭」を踊るお客さま

子育て世代に優しい店へ
「ゆめタウン中津」が進化

2025年6月27日、「ゆめタウン中津」がリニューアルオープンしました。1998年の開業以来最大規模の活性化で、直営売場を一新したほか、イベントホールを新設。お客さまの声を受けたサービス環境の改善により、授乳室の壁紙の色を明るくし、利用しやすくしました。また新規導入した対面式ベビーカーは、お子さまの顔を見ながらお買い物ができると好評です。無料遊び場も遊具を増やし、子育て世代に優しい店舗になりました。



無料の遊び場に、大型遊具を増設

「ゆめタウン八女」に
多世代交流の拠点が完成

2025年5月16日、地域交流拠点「ヨってこん館」が「ゆめタウン八女」にオープンしました。高齢者のフレイル※防止や、ひきこもりに関する相談・支援、地域住民のつどいの場づくりなどを目的に、八女市社会福祉協議会が運営しています。祝日を除く平日に開館し、リズム体操や笑いヨガ、読み聞かせなどを実施。お買い物途中に休憩することもでき、多世代交流の場として機能しています。

※フレイル/心身の活力(筋力・認知機能・社会とのつながりなど)が低下した状態のこと



オープニングセレモニーの様子

「ゆめタウン井原」で
「サマーマルシェ」開催

2025年7月19日・20日に「ゆめタウン井原」で、「サマーマルシェ」が開催されました。井原市の特産品や衣類、雑貨の販売や、多彩な飲食ブースなど69店舗が出店。段ボール迷路やアイスづくり体験、地元シンガーのステージも行われ、家族連れを中心に幅広い世代が集まりました。また会場で物品を購入した方へ「ゆめタウン井原」で使える100円引きクーポンを進呈し、ご好評をいただきました。



アイスづくり体験のブース

「スイーツフェスタ」に
徳島のスイーツが大集合

2025年4月4日～6日、「ゆめタウン徳島」で「徳島うきうきスイーツフェスタ」が開催されました。地元の菓子店11社が、阿波和三盆糖やなると金時などの特産品を生かしたさまざまなスイーツを販売するとあって、特設会場は大にぎわい。和菓子体験教室ではお子さまからご高齢の方まで幅広い世代がお菓子づくりに挑戦し、菓子職人に成形のコツを質問しながら楽しく学ぶ機会となりました。



11社のお菓子がずらり



皆さまとともに豊かな暮らしを

行政と協定締結
経済活性化や防災で連携

「地域とお客さまの生活に貢献し続ける」という経営理念のもと、イズミは行政と包括協定を結び、経済活性化や市民サービス向上などに協力しています。

また、近年、ゲリラ豪雨や地震などのリスクが高まる中、災害時の物資供給や避難施設を目的とした協定も積極的に締結。有事の際は迅速に食料や水を供給し、店舗を避難所として開放するなど、最大限の貢献を図っていきます。

行政との協定一覧（2026年6月30日現在）

■ 包括協定				■ 避難施設の協定			
締結年	県・市・町・大学名	締結年	県・市・町・大学名	締結年	県・市・町・施設名	締結年	市・町名
2011年	広島県	2023年	広島修道大学(広島県)	2009年	大牟田市(福岡県)	2011年	中津市(大分県)
	熊本県		下関市(山口県)※2	2010年	熊本市(熊本県)		藍住町(徳島県)
2015年	廿日市市(広島県)		出雲市(島根県)	2011年	大川市(福岡県)	2012年	呉市(広島県)
2016年	山口県		江田島市(広島県)		藍住町(徳島県)		別府市(大分県)
	周南市(山口県)	2024年	浜田市(島根県)		遠賀町(福岡県)		大竹市(広島県)
2017年	広島大学(広島県)		丸亀市(香川県)	2012年	行橋市(福岡県)※3	2015年	廿日市市(広島県)
	宗像市(福岡県)		別府市(大分県)		広島市(広島県)	2017年	広島市(広島県)※5
2018年	下松市(山口県)		佐賀市(佐賀県)		赤磐市(岡山県)	2018年	下松市(山口県)
2021年	岩国市(山口県)		北九州市(福岡県)		井原市(岡山県)		三豊市(香川県)
2022年	高梁市(岡山県)		筑紫野市(福岡県)	2013年	八女市(福岡県)	2019年	福山市(広島県)
	高松市(香川県)		宇城市(熊本県)※1		佐賀市(佐賀県)		出雲市(島根県)
	安芸高田市(広島県)	2025年	大竹市(広島県)		うきは市(福岡県)	2021年	武雄市(佐賀県)
	藍住町(徳島県)		周防大島町(山口県)		大竹市(広島県)	2022年	大内連合自治体(山口県)
	菊陽町(熊本県)		赤磐市(岡山県)		八代市(熊本県)※3		益田市(島根県)
	武雄市(佐賀県)		真庭市(岡山県)	2014年	周南市(山口県)※3		東広島市(広島県)
	井原市(岡山県)		大村市(長崎県)		公立玉名中央病院(熊本県)※4	2023年	遠賀町(福岡県)
	行橋市(福岡県)	2026年	那珂川市(福岡県)	2015年	廿日市市(広島県)		香川県※6
	大川市(福岡県)		瀬戸内市(岡山県)	2016年	山口県警察本部(山口県)		熊本市(熊本県)※1
	東広島市(広島県)			2018年	三豊市(香川県)		広島市(広島県)※7
	柳井市(山口県)	災害時における物資協定		2019年	下松市(山口県)		江津市(島根県)
	八女市(福岡県)			2020年	出雲市(島根県)	2024年	真庭市(岡山県)
	防府市(山口県)			2021年	柳井市(山口県)	2025年	高梁市(岡山県)
	長崎市(長崎県)			2022年	武雄市(佐賀県)	2026年	産交バス(株)(熊本県)
	三豊市(香川県)	2006年	福岡県		下関市(山口県)		広島南警察署(広島県)
	江津市(島根県)		広島県		益田市(島根県)		
	山口市(山口県)		佐賀県		浜田市(島根県)		
2023年	飯塚市(福岡県)	2007年	熊本県		東広島市(広島県)		
	呉市(広島県)		山口県	2023年	江津市(島根県)		
	八代市(熊本県)		島根県		福山市(広島県)		
	久留米市(福岡県)		長崎県	2024年	真庭市(岡山県)	2026年	廿日市市(広島県)
	熊本市(熊本県)※1		菊陽町(熊本県)		福岡市(福岡県)		中津市(大分県)
	筑後市(福岡県)		合志市(熊本県)		日田市(大分県)		那珂川市(福岡県)
	宇部市(山口県)		高松市(香川県)		筑紫野市(福岡県)		宇城市(熊本県)
	中津市(大分県)	2008年	防府市(山口県)		長崎市(長崎県)		
	大牟田市(福岡県)		瀬戸内市(岡山県)	2025年	高梁市(岡山県)		
	益田市(島根県)		丸亀市(香川県)		安芸高田市(広島県)		
	荒尾市(熊本県)	2009年	宗像市(福岡県)				

※1ゆめマート熊本含む ※2ゆめタウン・ゆめマート4店舗、ゆめマート北九州4店舗 ※3避難施設含む ※4窓口は玉名市 ※5LECTのみ対象 ※6武力攻撃事態等／ゆめタウン高松のみ対象 ※7車中避難／ゆめタウン広島、LECT ※8ゆめタウン東広島 ※9ゆめタウン学園店、ゆめマート西条 ※10ゆめタウン出雲、ゆめタウン斐川



瀬戸内市の黒石市長(左)と販売本部の小林本部長

南海トラフ地震を想定
イズミ本社で防災訓練

2026年1月23日、イズミ本社で南海トラフ地震を想定したBCP(事業継続計画)訓練を実施しました。災害対策本部を立ち上げ、被災想定エリアとオンラインで連携。BCPマニュアルの検証も行い、課題を抽出して社内で議論を行いました。



オンラインで被災状況を素早く確認

消防署と連携し
防災イベント開催

2026年3月1日、「ゆめタウンはません」で熊本市南消防署と防災イベントを開催しました。友枝支配人が一日消防署長を拝命し、防災啓発のピラを配布。従業員による消防訓練も行い、防災意識を高める機会となりました。



一日消防署長を務めた友枝支配人(左)

「ゆめタウン益田」で
防災フェア開催

2025年5月24日、「ゆめタウン益田」で防災意識向上を目的とした「ますだ防災フェア」を開催しました。益田市危機管理課、消防署の協力で実施され、避難所用段ボールの間仕切りやテントの展示、非常食のサンプル配布を行いました。また消防署による活動紹介、子ども向け体験、車両展示などを実施。また消防音楽隊による演奏会もあり、多くのお客さまでにぎわいました。



ダンボールの間仕切り



益田消防音楽隊の演奏

地域防災プロジェクト
「No 防災 No LIFE」

九州の小売流通業が参加する「九州流通サステナビリティサロン」の一員として、2025年3月に防災意識の向上に向けたキャンペーン「No 防災 No LIFE」を開催。店頭では「ローリングストック(日常備蓄)」の啓発活動を行い、売上の一部を活用して地域の小学校へオリジナルの「学べる防災バッグ」を寄贈しました。



ローリングストック啓発パネルを設置

「遠賀町デマンドバス」
実証運行を支援

2025年9月1日、「遠賀町デマンドバス」の実証運行が始まりました。これは公共交通の空白地帯をなくし、高齢者の外出を促進する取り組みで、発着点である「ゆめタウン遠賀」と町内の指定停留所間をAIが算出した最短経路で結びます。2028年3月末まで運行される予定で、「ゆめタウン遠賀」はスポンサーとして運行を支援しています。



「ゆめタウン遠賀」で行われた出発式

地域のお客さまの暮らしを支え、お買い物に行く楽しみをお届けします。



ゆめタウン遠賀波多江店長

熱中症を防ぐため
店舗を避難場所に

2024年より、気候変動による気温上昇への適応策として、各地の行政と連携し「気候変動適応法に基づく指定暑熱避難施設に係る協定」の締結を進めています。協定を結んだエリアで熱中症特別警戒アラートが発表された際は、危険な暑さから避難する場所である「クーリングシェルター」として店舗を開放し、熱中症による健康被害の防止に向けた受け入れ施設として機能しています。

「ゆめタウン井原」の休憩スペース





皆さまとともに豊かな暮らしを

広島修道大学の学生と惣菜を共同開発

広島修道大学とイズミは、「地域社会の発展に貢献できる人材の育成」と「地域社会とともに継続的に発展すること」を目的として、2023年に包括的連携協定を締結しました。

この協定に基づき、地域密着型の学びを推進する一環として惣菜の共同開発を実施。2025年度は、学生の皆さんが市場調査や試作品の調理実習などを行い、イズミ社員に商品案をプレゼン。最終的に4品が商品化され、11月1日から3日間、店頭で販売されました。「LECT」と「ゆめタウン廿日市」では学生による試食会を実施し、呼び込みの効果もあって多くのお客さまでにぎわいました。



「LECT」でお客さまに試食を勧める学生

「ゆめ育がっこう」で体験型の環境学習

2025年8月2日、体験型環境学習イベント「ゆめ育がっこう」をイズミ本社で開校しました。当社と広島県、地元企業4社の6主体が連携して開催したもので、当日は各参加団体が講師となり、「環境」「水」「資源循環」「食」「スポーツ」など多様なテーマで授業やワークショップを行いました。参加した26組52名の親子は、身近な生活とサステナビリティのつながりについて理解を深めました。



水を濾過する実験の様子

職業体験イベントにコスメショップを出展

2026年2月21日、小学生向けのイベント「みらいわくわく！ こども仕事体験フェスタ」が広島市西区で開催され、コスメショップのブースを初めて出展しました。参加した小学生は接客やレジ打ちを通じて、仕事の楽しさややりがいを経験しました。



小学生に接客のコツを説明

SDGs推進を高校生が議論

2025年11月15日、広島大学で「第6回SB Student Ambassador中国ブロック大会」が開催され、中国5県の高校生205名がSDGsに関して活発な意見交換を行いました。地元企業4社のうちの1社として、イズミからはサステナビリティ推進課の松永課長（当時）が登壇。CO₂削減や食品ロス削減の取り組みを紹介しました。



実践事例を発表する松永課長（当時）

中学生向けに金融教育授業

行橋市立泉中学校で「ゆめタウン行橋」の野間支配人（当時）が金融教育授業を行いました。働くことの意義やお金の流れについて、店舗運営の経験を交えながら分かりやすく解説。質問にも丁寧に答え、職業理解と金融リテラシー向上に貢献しました。



教壇に立つ野間支配人（当時）

「未来の仕事」を考える授業

2025年10月3日、大牟田市立宮原中学校で「ゆめタウン大牟田」の木本支配人が「未来の仕事」を考える授業を実施。木本支配人からイズミの歩みや地域貢献の重要性を紹介した後、生徒たちは大牟田市の将来に必要な仕事について議論しました。



中学生に語りかける木本支配人

「ゆめマート西栄」で「はじめてのおかいもの」

2025年10月26日、「ゆめマート西栄」で「はじめてのおかいもの」を実施しました。これは、お子さまが金銭感覚を身につけ、社会の仕組みを理解する場を提供するために企画したイベントです。参加したお子さまたちは、リストを持って売場を歩き、お目当ての商品を探しました。レジでの支払いや袋詰めにも一生懸命挑戦する、ほほえましい姿も見受けられました。



専用レジでお支払いを体験

「ゆめマート西条」で小学生がスーパーの仕事を体験

2025年9月28日、「ゆめマート西条」で小学生向けの「ゆめマート探検隊」を開催しました。ベーカリー部門では、担当者に教わってパンづくり。パンが焼き上がるまでの時間にバックルームツアーを行い、POP作成や魚のウロコ取りにも挑戦しました。最後に「はじめてのおかいもの」体験と、焼き上がったパンの飾り付けを行い、パンはお土産にお持ち帰りいただきました。



焼き立てパンに思い思いの飾り付け

自社製造ブランド「zehi」売上の一部を寄付

「zehi」は、おいしさと安全・安心にこだわった自社製造ブランドです。地域貢献の一環として、「zehi」の売上の一部を2023年度からこども食堂の支援団体に寄付しています。

2025年6月にイズミ本社で贈呈式を行い、出店エリアの12県15団体に計400万円を寄付しました。贈呈式に参加したNPO法人広島こども食堂支援センターの越智理事長は、「物価が高騰する中で、寄付金がいただけることは大変ありがたい。県内のこども食堂に分配し、有効活用したい」と述べられました。



越智理事長（左）とデリカ本部の柳井本部長（当時）



皆さまとともに豊かな暮らしを

イズミメイプルレッズ広島
新会社、新体育館で躍進

2025年7月9日、女子ハンドボール「イズミメイプルレッズ広島」の運営会社「株式会社メイプルレッズ」が設立されました。選手たちはプロ契約を結び、新たな監督、コーチ、キャプテンのもと、新ユニフォームで躍動。滋賀県で開催された国民スポーツ大会に広島県代表として出場し、見事準優勝に輝きました。

10月31日には、練習の拠点となる新体育館「youmeアリーナ」（広島市西区）が完成。スポーツや文化交流の場として活用していただこうと、オープニングイベントには地域の皆さまをご招待し、キッズ向けハンドボール体験会や記念試合などを行いました。

選手たちが目指すのは、リーグHでの優勝。日本一のタイトルで地域を活気づけようと、「youmeアリーナ」で練習に励んでいます。



赤い看板が映える「youmeアリーナ」



ダイナミックなジャンプシュートをきめる近藤選手



国民スポーツ大会に広島県代表として参加したメンバー

キャプテン
山本選手

プレーオフ進出を目指し、感謝を忘れず一戦一戦勝ち切れるように頑張ります！

広島市スポーツ協会より
感謝状を拝受

2026年1月9日、イズミグループは広島市スポーツ協会より感謝状を贈呈されました。これは、賛助会員として25年の長きにわたり協会の発展に尽力してきたことが評価されたものです。また、女子ハンドボールや野球、サッカー、バスケットボールなどの地域スポーツ振興に努めてきたことや、小売の立場から地域の皆さまの健康づくり支援を継続してきたことが、今回の表彰につながりました。今後も地域に根ざす企業として、スポーツを通じた貢献を続けていきます。



感謝状を受け取ったメイプルレッズの中山社長

カープファン感謝デー
抽選企画を実施

広島東洋カープのスポンサーとして2025年11月23日の「カープファン感謝デー」に協賛。新企画「あなたのyoume叶えるけん！」では、抽選で選ばれたお客さまが、選手とのリレー対決などの夢をかなえました。



選手たちと記念撮影

サンフレッチェ広島
スポンサードゲーム

広島を本拠地とするサンフレッチェ広島（男子・女子）を、イズミはユニフォームパートナーとして支援しています。2025年10月4日にはスポンサードゲームを開催し、グッズが当たる抽選会などを実施しました。



キム・ソジュン選手（右）と片山本部長（当時）

徳島インディゴソックス
5選手ドラフト指名

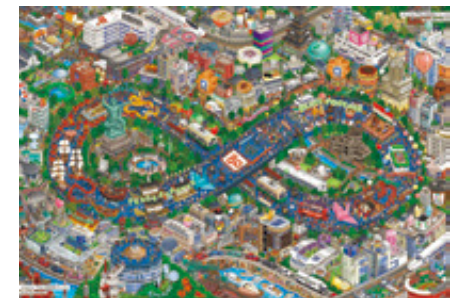
「ゆめタウン徳島」は、プロ野球独立リーグの徳島インディゴソックスを応援しています。2025年10月23日には、NPBドラフト会議の様子を、店内で選手とお客さまと一緒に見守りました。5選手がプロへの切符を手に入れ、中でも岸本大希選手が広島東洋カープの育成2位に指名された瞬間は、店内が歓声に包まれました。



指名の喜びをお客さまと分かち合う様子

被爆80年に
平和の尊さを発信

2025年の被爆80年に、中国新聞社と長崎新聞社は「PEACE FOREVERプロジェクト」を展開しました。広島と長崎の街並みを描いたイラストが2紙に同日掲載される企画で、イズミも協賛企業として平和の尊さを発信しています。



長崎と広島の街並みが描かれた2つの作品を並べると、∞（無限大）マークが浮かび上がるイラスト

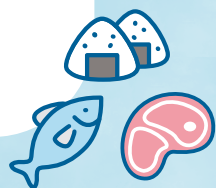
2029年の開館目指し
泉美術館を移転新築

2026年4月、泉美術館の移転新築工事が始まりました。広島市西区商工センターから、イズミ創業の地に近い中区三川町へ移転し、創業者・山西義政名誉会長が収集した美術品を展示します。開館は2029年春の予定です。



泉美術館完成イメージ

安全・安心



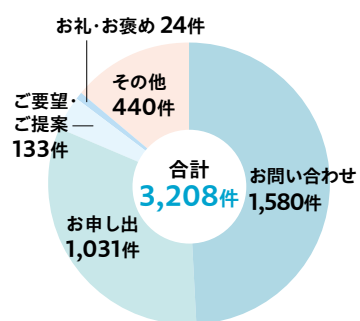
誠実な対応と 責任ある調達を

法令を遵守し、適正な管理のもと
安全・安心な商品とサービスを
提供するほか、お取引先さまとともに
共存共栄を図り、
環境や社会に配慮した
事業活動を推進していきます。

お客さまの声で 商品・サービス改善

お客さまの率直な声は、
品ぞろえやサービスの向
上に欠かせません。フリー
ダイヤルを通じて集まった
ご要望は、本社「お客さま
相談室」で一つずつ検討
しています。店頭の記事用
紙を通じての要望は各店
舗で対応し、店舗運営に
役立てています。

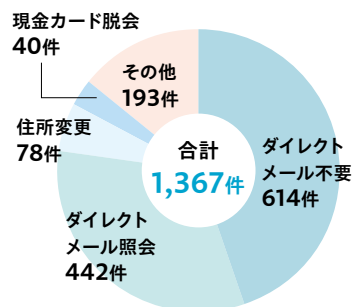
2025年度フリーダイヤル年間実績



ルールに沿って 個人情報を管理

ご住所や電話番号
など、お客さまの大切
な個人情報を慎重かつ
適切に管理するため、
法令に沿ったプライバ
シーポリシーを制定。
ルールを遵守し、鍵付
きロッカーや管理台帳
で保管しています。

2025年度個人情報専用ダイヤル年間実績



店舗が自主性をもって 衛生管理を徹底

食品を販売する事業者として、HACCPの考え方に沿った
衛生管理計画を定め、日々の業務を行っています。安全・安心
な商品製造・販売を強化するため、年2回、外部機関による店
舗の監査を実施。店舗では食品安全チームが中心となり、毎
月テーマに沿ってどうすれば衛生管理ルールを徹底できるか
を議論し、各部門で実施項目を決めて取り組んでいます。



食品安全チームが
取り組み項目を議論

食品従事者を対象に 認定試験を実施

食品売場で働く従業員は「食品安全研修」
を受講し、鮮度や温度管理、表示などの知識
とノウハウを習得しています。2024年度に
は動画を用いた研修も導入し、学びやすい体
制を整えました。

管理職、食品売場の正社員・上級職のパート
ナー社員が「食品安全ライセンス認定試験」を
受験し、2,280名が合格(2025年度実績)。部
門を挙げた安全管理体制を構築しています。



一つひとつ確実に鮮度をチェック

「イズミ会」を通じて お取引先さまとの連携を強化

1975年に発足した「イズミ会」は、お取引先さまとイズミの
絆を深め、ともに成長していくことを目的としています。毎年5
月には総会を開催し、イズミの経営理念やイズミグループ調達
方針を共有。お取引先さまとの連携強化を図っていま
す。また、定期的に「CSR
調達セルフ・アセスメント
質問表」による調査を行
い、お取引先さまのCSRに
関する取り組み状況を確認
しながら、公正・適正な
取引を推進しています。



経営方針を発表する町田社長

JFS-B plus 規格 監査員・判定員養成研修修了

2025年5月、JFS-B plus規格の
監査員・判定員養成研修を3名が修了
しました。この規格は、食品の安全管
理を認証するものです。研修修了者
は、イズミグループ各店に向けて効果
的なルールづくりを推進。またPB商
品「ゆめイチ」の製造工場を監査し、
製造環境と原料の仕入れ状況を確認
して品質管理を行っています。

公正な取引推進へ 本社に投書箱を設置

お取引先さまにご意見をいただくための投書
箱を、イズミ本社1階エントランスホールに設置
しています。商談に関
するご指摘には真摯に
対応し、より一層の公
正な取引を推進。その
ほか、従業員のマナー
やサービス、施設管理
などについての率直な
声も、店舗運営の改善
に役立てています。



イズミ本社1階の投書箱

専門店の接客技術向上へ ロールプレイング大会開催

テナント従業員の接客技術向上のため、ゆめタウン専門店
ロールプレイング大会「ゆめ1グランプリ」を毎年開催していま
す。2025年10月10日に開催された第9回全社大会には、地
区予選を勝ち抜いた11名が参加。仲間の声援を受けて、出場
者は日頃の成果を披露しました。



参加者による集合写真

テナントスタッフ 研修会を開催

2025年7月にイズミ本社、9月に福岡市でテ
ナントスタッフ研修会が開催され、好事例発表と
講演会セミナーを実施しました。経営の知識を学
び、接客スキルをアップデートする場として多くの
皆さまが出席。参加された方々からは「店舗運
営に生かせる」と高い評価をいただきました。



真剣に受講する様子



安全・安心

誠実な対応と責任ある調達を

初のプライベートブランド 「ゆめイチ」誕生

2025年9月11日、イズミグループ初のプライベートブランド「ゆめイチ」の販売を開始しました。お客さまに喜んでいただける味・品質・価格の実現を目指して開発した商品は、発売当初からご好評をいただいています。

「ゆめイチ」には3つのラインアップがあります。物価上昇が続く中、お客さまの節約志向が根強いことから、当初は低価格商品の「プライス」を中心に開発。徐々に品質重視の「レギュラー」、高付加価値の「プレミアム」を強化しています。2030年度に向けてアイテム数をさらに拡大し、幅広い商品の供給を通じて、地域の暮らしを応援し続けていきます。

ブランドコンセプト

イチバンも。イチオシも。

価格も、品質も、あなたにイチバン寄り添いたい。
食卓に、街に、イチオシな商品をお届けしたい。
そんな想いを込めて生まれたPBです。

3つのラインアップ



「プライス」
節約志向に応える
低価格商品



「レギュラー」
味と品質重視の
中価格帯商品



「プレミアム」
全てにこだわる
高付加価値商品

くまモンが熊本県産米の魅力発信

2026年2月7日、「ゆめタウン広島」で「ゆめイチ」の新商品「熊本育ちの美味しいお米」の発売イベントを開催しました。熊本県営業部長兼しあわせ部長のくまモンが登場。熊本県産米のおいしさや特徴を紹介しました。



くまモンがステージでPR

お客さまの声を商品に生かす

2026年4月20日、ゆめアプリに新機能「ゆめレビュー」が登場しました。「ゆめイチ」の商品について「よかった」「イマイチ」の2択評価とコメントの投稿が可能です。いただいた声は、今後の商品開発に生かしていきます。



「ゆめレビュー」画面(イメージ)



「ゆめイチ」誕生記者会見。左から鎌田部長、山西副社長、山野本部長(当時)



試食会で味を確認



商品のこだわりをお客さまに説明



おすすめ商品をさらにと陳列

水産エコラベル 「MEL 認証」を取得



イズミは小売事業者として「MEL 認証※」を取得しました。2025年7月から認証を受けたかつおとぶりを販売し、お客さまに海洋環境や水産資源の持続可能な利用に貢献できる商品を提供しています。

※MEL認証／水産資源の持続性と環境に配慮した漁業や養殖業を対象とする水産エコラベル



MEL認証のぶり

環境に優しい アメリカ産コットン



衣料品売場で、「COTTON USA」マークがついたTシャツを多数販売しています。このマークは、水や農業をできるだけ減らして育てられた、サステナブルなアメリカ産コットンの証。着心地のよさでも高く評価されています。



COTTON USA Tシャツ

※写真は一例で、商品は季節ごとに入れ替わります

ブランドバッグや 時計のリユースを推進

「X-SELL (エクセル)」は、イズミグループのインポートブランド専門店です。30年以上培った鑑定力を生かし、ブランドバッグ・財布・時計・宝飾品などのリユース事業を推進しています。お客さまが大切にされてきた品を丁寧に査定・買取し、品質管理を行ってから再販売することで、良質な資源の循環と廃棄削減に貢献しています。



ブランド品のリユースを進める「X-SELL」

SAGA アクボニサーモン 「ゆめタウン佐賀」で発売

2025年5月29日から2026年1月10日まで、「ゆめタウン佐賀」でSAGAアクボニサーモンの販売を実施しました。アクボニとはアクアポニックスの略で、魚と野菜を同時に育てる次世代のサステナブルな循環型農業です。初日から4日間、佐賀県立高志館高校の皆さんによる店頭販売が行われ、多くのお客さままでにぎわいました。



刺し身や寿司を販売

学生が育てた 畜産物・農産物を販売

イズミグループの店舗では、地元の高校生の販売実習を積極的に受け入れています。

2026年2月7日には広島県立庄原実業高等学校の生徒の皆さんが愛情込めて育てた和牛を「LECT」で販売。試食販売をしたほか、学校での活動の様子をパネルで紹介しました。



庄原実業高等学校の皆さん

2025年度には26校が実習に参加。店頭に立ち、お客さまに直接商品をPRしながら流通や販売などを学ぶ場としてご活用いただきました。



高松実業高等学校の販売実習

地域・お客さま

安全・安心

ダイバーシティ・インクルージョン

環境

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン



多様な人財が活躍できる環境を

年齢や性別、国籍などに関わらず、さまざまなバックグラウンドを持つ従業員が、思う存分に力を発揮できるよう、人事制度や研修制度のさらなる充実を図っていきます。

人財の価値を最大限引き出す「人的資本経営」を推進

「社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける」という経営理念のもと、イズミグループは地域社会の活性化を推進し、持続可能な地域づくりに貢献していきます。その実現に不可欠なイノベーション人財を育成するため、人的資本経営を強化。6つの主要課題を特定し、その解決に向けた取り組みを進めています。

人的資本経営への取り組み

人財育成

- 次世代リーダーの育成および幅広い知見を有する社員の育成を目的として、選抜研修を実施する
- 事業競争力の向上に向けた、生鮮分野の専門人財育成
- 高効率オペレーション教育の推進
- DXを活用した教育改革
- 実務スキル習得および向上に向けて、階層別研修を実施する

従業員エンゲージメントの向上

- エンゲージメントサーベイを活用し、その結果から見える課題を解決する
- 働き方改革をより一層推進する
- 従業員の健康は地域の健康につながるという考えのもと、従業員の健康維持や増進および未病への取り組みを実施する
- 双方向のコミュニケーションを重視し、対話を促進する

採用と定着

- 採用方法の多様化による優秀人財の確保
- 入社4年目までの若年層を中心に、定着化を図る

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン

- 女性、障がい者、高齢者、外国人など多様な人財が活躍できる場を提供する
- 少子高齢化におけるビジネスケアラー増加に対応した環境づくり

組織文化の変革

- 一人ひとりが自ら考え、挑戦・革新する組織文化への原点回帰

コンプライアンス

- 法令遵守意識の向上
- 安心して相談できる窓口の設置

身だしなみ基準を見直しより自分らしく働ける環境へ

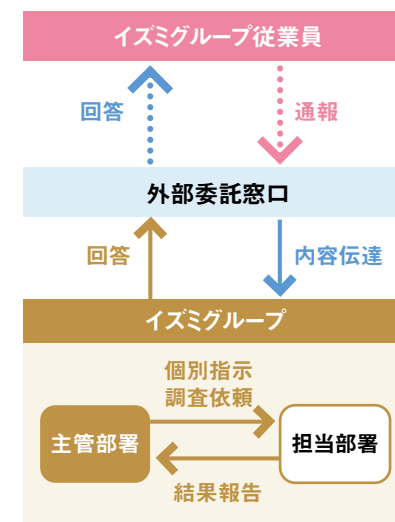
2025年7月、従業員の身だしなみ基準を見直し、衛生管理に配慮しつつ髪型やネイルなどを自由化しました。これは、より自分らしく働ける環境づくりの一環として実施したものです。また9月には従業員の名札表記を、プライバシー保護とカスタマーハラスメント防止の観点から「STAFF」に変更しました。



お客さま向け告知ポスター

相談体制の充実により安心して働ける職場づくり

風通しがよい職場づくりに向けて、相談窓口「イズミホットライン」を開設しています。2025年度の通報件数は214件でした。2026年3月より内部通報制度の外部委託により、心理的安全性の向上および公正性・中立性を確保し、相談体制のさらなる強化を進めています。



ITリテラシー研修でセキュリティ向上

2025年度に、デジタルコミュニケーション勉強会を実施しました。ITリテラシー向上を目的とした研修で業務効率を上げるためのスキルアップに役立ちました。情報セキュリティに関する講義もあり、意識向上に努めています。

従業員の実践事例を店舗運営に生かす

2025年6月、「ゆめ感動物語」が行われ、9名が実践事例を発表しました。11月からは大会名を「ゆめスタ☆グランプリ」と改め、11名が生産性アップや品切れ防止などの好事例を紹介。当日の様子はオンラインで配信し、全社で共有して店舗運営に生かしています。

新入社員研修で社会人の基礎を学ぶ

イズミグループでは従業員一人ひとりが自らの能力を発揮できるよう、継続的に学習の機会を提供しています。その第一歩が新入社員向けの合宿研修です。コミュニケーション力の向上や、経営理念・社会的使命への理解を深めることで、イズミグループで働く意義について学びます。



販売員としての接客マナーを習得

最新小売事情を学ぶアメリカ研修

2025年11月10日～15日、公募で選ばれた従業員17名がアメリカ研修に参加しました。ナショナルチェーンやローカルチェーンを訪問したほか、同一企業の複数店舗を視察して比較。アメリカ流の標準化された売場やサービスを視察・体験しました。



ロサンゼルスで店舗を視察

AIを活用 笑顔と発声をトレーニング

2025年7月、笑顔・発声トレーニングAI端末「スマイルくん」を導入しました。これは従業員の笑顔や発声などをAIが採点するもので、楽しく接客スキルを磨くことができます。



ゲーム感覚で笑顔トレーニング



「ゆめスタ☆グランプリ」の参加者



ダイバーシティ・エクイティ&
インクルージョン

多様な人財が活躍できる環境を

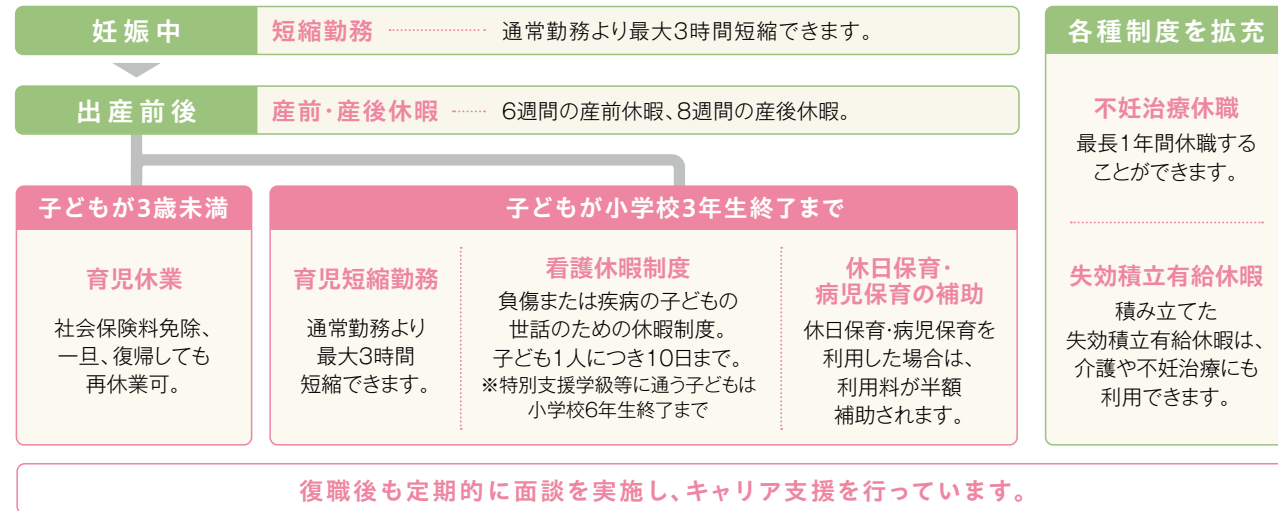
多様な働き方を支える制度の拡充

イズミグループでは1995年から「ポジティブアクション」に取り組み、子育てと仕事の両立を支援してきました。現在は、多様な人財が活躍できる環境づくりに向け、介護のための休業制度や時短勤務制度についても拡充しています。

社員向けポータルサイトで
閲覧できる
「パパママ応援BOOK」



【育児休業制度】



社内制度を整備し 男性育休取得を後押し

男性育休取得率向上に向け、社内制度の「配偶者出産立会い休暇」「夫婦で子育て休暇」を導入しています。店舗で課題となっていた育休による不在ポストには、本社からフォロー人員の派遣を開始。その結果、2025年度の男性の育児休業等取得率（育児を目的とした休暇制度を含む）は93%となりました。

男性の育児休業等取得率
2025年度実績 **93.0%** → 2030年度目標 **100%**

配偶者出産立会い休暇
配偶者の出産予定日を含む前後2日間特別休暇取得可能。

夫婦で子育て休暇
配偶者が出産した際、子どもの出生後8週間以内に、連続した3日間の特別休暇取得。

育児・育休中の社員が オンラインで交流

2025年5月9日、オンラインで育児・育休中社員の情報交換会「ぴよぴよふぉーらむ」を開催。先輩社員の体験談や職場復帰の相談会などを実施し、育休中の社員のモチベーションアップを図りました。



画面越しに交流した従業員の皆さん

「TEAM共家事&子育て」 協賛企業として認定を受ける

イズミは広島県が推進する「TEAM共家事&子育て」の協賛企業として認定されました。行政とも連携して、性別に関わらず家事や子育てを分担し、仕事と家庭の両立を支える社会づくりを目指していきます。

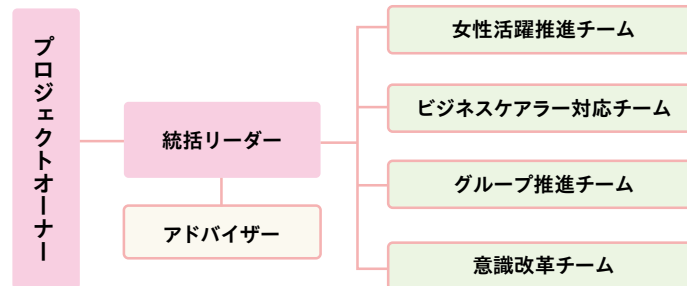


キックオフセレモニーに
グループコーポレート統括部の戸町部長が参加

多様な人財の活躍支援へ 新プロジェクトが始動

2025年5月、「ゆめCanプロジェクトNext」が始動しました。これは2014年に女性活躍推進を目的に発足した「ゆめCanプロジェクト」を、多様な人財が活躍できる環境づくりに向けて再編したものです。従業員が互いに尊重し合う組織文化の醸成も重視し、4つのチームが活発に活動しています。

「ゆめCanプロジェクトNext」組織図



仕事と介護の両立支援へ 支援制度を整備

2025年度の社内アンケートで、現在介護をしている50代の従業員の93%が、父母または義父母を介護中であることが分かりました。仕事と介護の両立を支援するため、各種制度の充実を図っており、介護休業は最長1年間取得可能としています。

主な介護支援制度

介護休業

家族1人につき1年を超えない期間で、3回まで分割取得可能。

短縮勤務

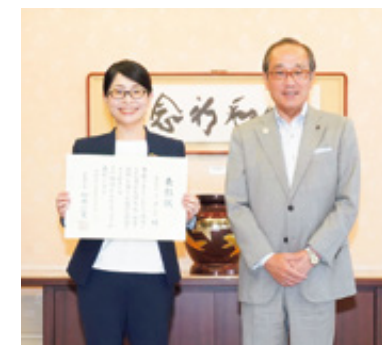
家族の看護介護のため、通常勤務より最大3時間短縮できます。

看護介護休暇

家族1人につき年10日まで、2人以上は年20日まで取得可能。

男女共同参画推進 事業者特別表彰受賞

2025年7月3日、広島市の男女共同参画推進事業者表彰式で、イズミは一般表彰の受賞後10年を経過しても、男女共同参画をさらに推進している事業者として特別表彰を受けました。女性のキャリア支援や育児との両立支援、「配偶者出産立会い休暇」など、多方面の取り組みが評価されました。



広島市の松井市長（右）と
能力開発部の戸町部長（当時）

定年を60歳から65歳へ 正社員として勤務可能に

社員一人ひとりの「働き続けたい」という意志を尊重し、定年制度の延長を実施中です。2025年度以降に満60歳を迎える正社員を対象に、定年年齢を毎年1歳ずつ引き上げており、2030年度には65歳まで正社員として勤務できる制度とします。

健康経営優良法人 2026認定

経済産業省と日本健康会議が行う認定制度「健康経営優良法人2026」に、イズミ、ゆめマート北九州、ゆめカード、イズミテクノが認定されました。これは、従業員の健康の保持・増進に取り組む企業に与えられる認定です。イズミグループは今後も、経営方針の柱の一つとして健康経営を推進し、従業員の健康を重視して事業を推進していきます。

健康増進アプリで 福利厚生制度を配信

2022年に導入したヘルスケアアプリ「HELPO」により、健康相談やオンライン診療で、従業員の健康づくりを支援しています。2025年には「イズミ従業員専用サイト」を併設。福利厚生制度や育児・介護支援制度などをスマホで確認できるようになりました。



福利厚生ハンドブック
などを閲覧可能

環境



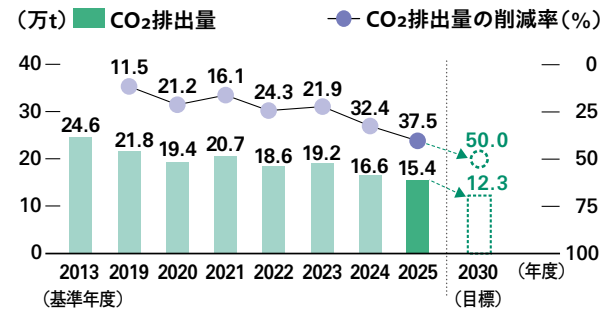
脱炭素社会の実現と 資源の有効活用を

お客さまや行政、
お取引先さまとの連携により、
再生可能エネルギーの活用や
資源リサイクル、
プラスチック製容器包装の削減などに
取り組んでいます。

再エネ調達と省エネを推進し CO₂排出量を着実に削減

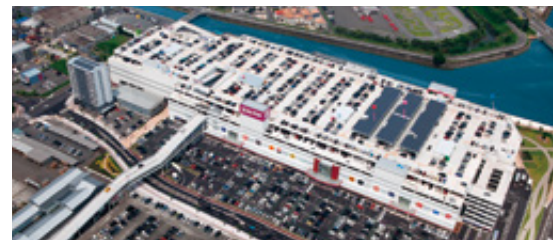
店舗運営に伴うCO₂排出量の削減に向け、排出量の大半を占める電力使用に着目し、電力使用量の削減と再生可能エネルギーの導入に取り組んでいます。具体的には、太陽光発電設備の設置による再エネ活用、省エネ設備の導入、従業員による日常的な省エネ行動を推進しています。計画的な取り組みにより、CO₂排出量は年々減少しています。

店舗運営に伴うCO₂排出量／CO₂排出量削減率(2013年度比)



店舗屋上に設置した 太陽光発電パネルで電力を創出

2015年から店舗の屋上へ太陽光発電パネルの設置を進め、2021年にはPPAモデルを導入しました。2026年3月末時点で太陽光パネルを設置した店舗数は39店舗に達しており、発電した電力は店舗の運営に使用しています。



屋上で太陽光発電を行う
「ゆめタウン光の森」

環境に優しい都市ガスで CO₂排出量実質ゼロに

「ゆめ마트西条」で
使用している「カーボン
ニュートラルな都市ガス」
は、採掘から燃焼までの全
工程でCO₂排出量が実質
ゼロ。環境負荷の軽減に貢
献する特別なガスです。



カーボンニュートラルなガスを使用する
「ゆめ마트西条」

再エネ電力調達 「オフサイトPPA」の導入を拡大

徳島市八万町で、オフサイトPPA※による太陽光発電設備を整備し、2026年3月より「ゆめタウン徳島」と「ゆめタウン丸亀」に発電した電力を供給、自家消費を行っています。これにより再生可能エネルギーの地産地消とCO₂排出量削減を図ります。

※オフサイトPPA／遠隔地にある自社敷地内で発電した再生可能エネルギーを自社の使用電力として活用する仕組み



イズミ専用の太陽光発電施設

冷気漏れ防止カバーで 夜間の省エネ対策

カット野菜やチルド商品などの冷蔵ショーケースにカバーを取り付け、閉店後の冷気漏れを防いで節電しています。さらに冷気の吹き出し口を毎日掃除し、冷却効率を高めて省エネを推進中です。



閉店後に冷気漏れ防止カバーをセット

フロン不使用の 冷凍・冷蔵ケースを導入

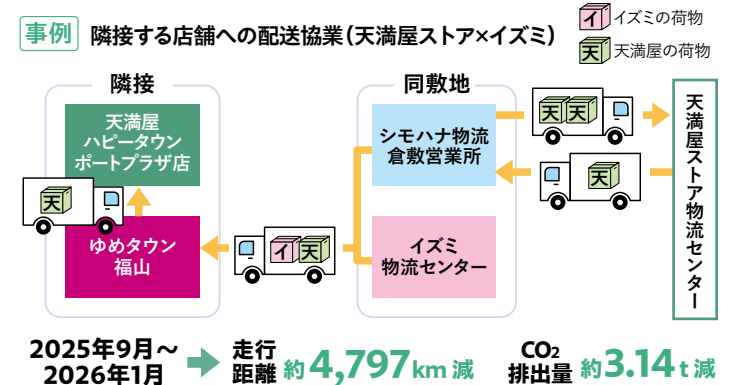
新店オープン時に、ノンフロン冷凍・冷蔵ケース（プラグインショーケース）の導入を行っています。これは、温室効果ガスであるフロンの抑制と節電によりCO₂排出量を削減する設備で、全店に20台を導入しています（2026年5月末時点）。



新規導入した冷凍ショーケース

物流の効率化を目指して 小売業や物流会社と協業

地域の生活を支える小売業を持続可能なものとするため、2024年4月に中四国の小売企業や物流企業が集まって「中四国物流研究会」を立ち上げました。現在、企業の垣根を超えた協業で、物流の効率化を図っています。具体例としては、イオンリテール株式会社・株式会社フジやDCM株式会社、株式会社天満屋ストアなどと共同配送を実験。コスト削減とCO₂排出量削減への効果を検証しています。



EV用充電スポット 設置店舗が増加

地域におけるCO₂排出量の削減に貢献するため、店舗駐車場への電気自動車(EV)充電スポット整備を進めています。現在、「ゆめタウン光の森」「ゆめタウン高松」「ゆめタウン廿日市」「ゆめタウン広島」「LECT」など、32店舗に設置済みです。



「ゆめタウン光の森」
EV充電スポット

重油式から電気式へ 空調設備を切り替え

従来型の重油式空調設備から電気式空調設備へ、店舗のリニューアルなどの際に切り替えを実施しています。電気式空調を用いることでCO₂排出量は半減するため、その効果は絶大です。地球温暖化防止へ、今後も切り替えを推進していきます。



重油式の空調設備

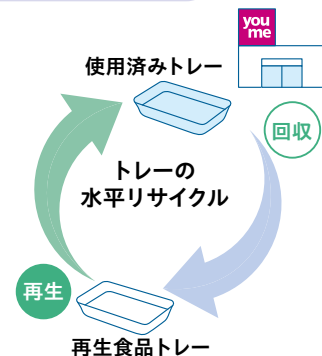
電気式の空調設備



脱炭素社会の実現と資源の有効活用を

店頭回収ボックスを地域のリサイクル拠点に

1991年から30年以上にわたり資源回収ボックスを店頭で設置し、牛乳パックや食品トレーなどを資源として回収しています。回収量は年々増加しており、回収された資源はすべて適切にリサイクルされます。特に食品トレーは再び食品トレーとして店頭で使用されるなど、資源循環に寄与し、CO₂排出量削減にもつながっています。



リサイクルステーション

ペットボトル回収で特典付与

2022年より、使用済みペットボトルを回収し、新しいペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」の水平リサイクルを実施しています。ゆめアプリ会員さまに1本につき0.2円の値引積立額を進呈している点も好評で、専用回収機の設置店舗を随時増やし、リサイクルの輪を広げています。



ペットボトル・アルミ缶回収機

不要になった衣類や傘を店頭で回収

衣類の回収活動「服のMUDA ZEROプロジェクト」がお客さまに人気です。回収した衣類は、一度繊維に戻し、新たな糸や生地、衣類として再生することで、廃棄物ゼロを目指しています。6月と8月の「傘の買い替えキャンペーン」では、傘を生地や骨組みに分別してリサイクル。いずれもお客さまに割引券などを提供し、家計にも優しい取り組みです。



店頭での回収活動

従業員の制服をエコバッグに再生

2021年度から従業員の制服をエコバッグに再生する取り組みを実施しています。資源の有効活用を目指し、回収した白衣やパンツなどの制服をポリエステル原料に再生し、サステナブルなエコバッグを製造。2025年度も毎年恒例の抽選企画で、お客さまへプレゼントしました。



2025年度のエコバッグ

広島市のイベントに出展 食品ロス削減をアピール

2025年10月26日、広島市がイベント「スマイル！ひろしま広場」をシャレオ中央広場で開催しました。食品ロス削減月間に合わせた催し物で、イズミは「フードドライブ」や「もぐもぐチャレンジ」の取り組みを紹介しました。



イズミの活動を紹介

フードロス削減へポスターを募集

2025年9月～11月、フードロス削減ポスターを募集しました。最優秀賞に輝いた作品は、イズミグループ店舗で1年間掲示。またご応募いただいた力作は全て、イズミホームページに掲載しています。



最優秀賞に輝いた作品

使用済み食用油の回収店舗を拡大

2026年3月より新たに6店舗で家庭から出る使用済み食用油の回収を開始しました。現在では広島県、兵庫県、福岡県、佐賀県、熊本県の5県29店舗（2026年6月末時点）で回収しています。回収した油は、バイオディーゼル燃料に再生され、軽油の代替燃料として使用するとCO₂の削減につながります。その他、ボイラー燃料、アスファルトの製造燃料や発電原料としても利用されています。



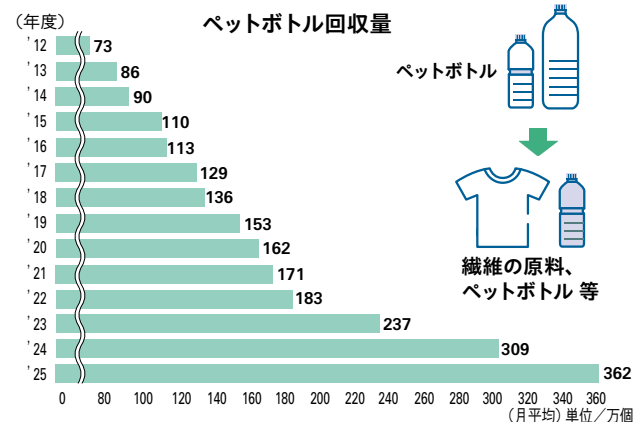
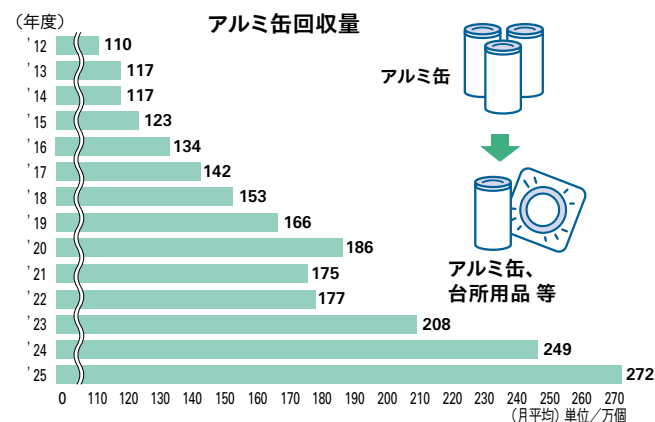
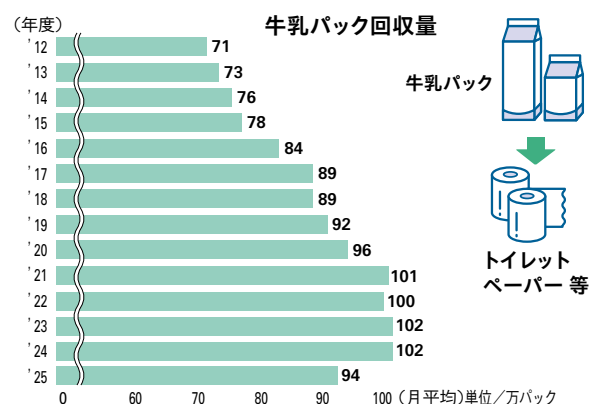
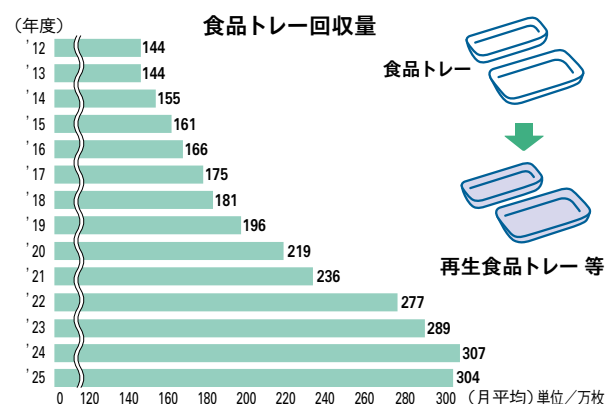
店頭の廃食用油回収ボックス

食品廃棄物を分別管理 肥料などに再生

店舗の食品部門では、野菜くずや魚のあらなどの食品廃棄物を堆肥や飼料にリサイクルしています。実施店舗は48店舗（2026年6月末時点）となります。また、2025年度には熊本で新たな取り組みがスタートしました。食品廃棄物からメタン発酵バイオガスを生成し、エネルギーとして再利用しています。



店頭リサイクルボックスでの容器回収量実績



グループ会社 サステナビリティレポート2026

イズミグループ各社は、それぞれ専門性の高い事業を推進すると同時に
持続可能性に配慮し、社会貢献や環境保全に取り組んでいます。

地 地域・お客さま 環 環境 安 安全・安心 D ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン

株式会社ゆめマート熊本

熱中症対策へ資格を取得

安



全店長が熱中症の予防法や応急処置などを習得し、「熱中症対策アンバサダー」資格を取得。お客さまや従業員が危険な暑さから身を守るための配慮をしています。

小学校での食育授業

環



「食品ロス削減」をテーマにした食育授業を菊池市内の小学校で実施。「もぐもぐチャレンジ」のキャラクター「もぐにい」が出張して寄贈品の贈呈式も行いました。

宇土市でフードドライブ

地



「ゆめマート宇土」は宇土市と「フードドライブ活動」に関する協定を締結しました。食品ロス削減と地域福祉支援に向け、フードドライブ回収ボックスを店頭に設置しています。

SUNNY 「新生サニー」で満足度向上

地



2025年9月、サニー各店は商品やサービスを一新し、「新生サニー」として始動しました。ニーズに対応した高品質・低価格のPB商品や、焼きたてパンが好評です。

株式会社ゆめマート北九州

お買い物支援の実証実験に参加

地



下関市豊田町で「貨客混載AIオンデマンド交通」の実証実験に参加中です。地域の食品スーパーとして「買い物支援物流」に協力し、惣菜や日用品などを供給しています。

環境教育の出前授業

環



株式会社エフピコとの連携で、食品トレーの製造工程やリサイクルのメカニズムを学ぶ出前授業を北九州市内の小学校で実施。環境学習に役立つ書籍の寄贈も行いました。

株式会社ユアーズ

海田町と包括連携協定を締結

地



2025年7月、海田町と包括連携協定を締結しました。健康教室やウォーキング大会などの開催を支援し、健康増進や防犯、食育などに協力しています。

府中町でサッカー教室に協賛

地



府中町との包括連携協定に基づき、次世代育成に貢献しています。2026年2月には、澤穂希さん、近賀ゆかりさんを迎えたサッカー教室に参加しました。

イズミグループ グループ会社

株式会社ゆめマート熊本
株式会社ゆめマート北九州
株式会社サンライフ
株式会社ユアーズ

株式会社デイリーマート

2店舗が熱中症の避難施設に

地



2025年、美馬市から「熱中症対策協力事業所」の認定を受けました。美馬店、脇町店は暑さからの避難施設として、休憩用のいすを設置しています。

従業員が認知症サポーターに

地



認知症のあるお客さまにも安心してご利用いただける店舗づくりを目指し、従業員が「認知症サポーター講座」を受講しました。レジでの対応などに生かしていきます。

イズミ・フード・サービス株式会社

新入社員がキャベツ収穫体験

地



毎年恒例のキャベツ収穫体験に、新入社員全員が参加しました。生産者の方の努力や工夫にふれ、食品ロス削減への意識を高めました。

株式会社ゆめデリカ

フロアホッケー大会に参加

D



従業員がフロアホッケーのチームを結成し、障がいの有無や国籍の違いを超えて練習を積んでいます。2025年9月には西日本大会に参加し善戦しました。

株式会社デイリーマート

株式会社ゆめカード

株式会社イズミテクノ

イズミ・フード・サービス株式会社

株式会社ヤマニシ

株式会社ゆめデリカ

株式会社ウオッチ・ビジネス・カンパニー

株式会社イズミテクノ

区民文化センターでイベント

地



広島市の3つの区民文化センターで、指定管理者として施設運営を行っています。文化の秋には、展示やワークショップなどのイベントを実施しました。

「似島ピースマイルデー」開催

地



ユーハイム似島歓迎交流センターで、2025年11月15日、「似島ピースマイルデー」を開催。ライブやダンスなどで平和への想いを発信しました。

株式会社ヤマニシ

再生素材の活用を拡大中

環



回収ペットボトル由来の再生ポリエステルを使用したインナーウェアを拡大し、着心地のよさと環境負荷低減を両立。自然分解する繊維も積極的に活用しています。

株式会社ゆめカード

スポーツチームのカード発行

地



バレーボールの「広島サンダース」と、プロ野球独立リーグの「香川オリーブガイナーズ」との提携クレジットカードを発行開始。スポーツ支援で地域を元気にします。